

令和3年度 第2回ねりま防災カレッジ事業運営会議 会議録

開催日時：令和3年3月29日（火）14：00から15：30

出席者：14名（1名欠席）

1 開会

2 報告事項

- (1) 令和3年度つながるカレッジねりま防災分野共助コースについて（資料3）
- (2) ねりま防災カレッジ年間受講者数（令和元年度～令和3年度）について（資料4）
- (3) 第2次みどりの風吹くまちビジョン改定アクションプラン（年度別取組計画）【案】について（資料5）
- (4) 令和4年度ねりま防災カレッジ事業予定について（資料6）
- (5) その他

質疑応答

<委員>令和3年度のつながるカレッジねりま防災分野共助コース（以下「つながるカレッジ」という。）におけるマッチング先のうち、その他区民防災組織とは何か。また、練馬区災害ボランティアとはどのような制度なのか。

<事務局>その他区民防災組織の内訳は、ご自分でNPO法人の立ち上げを考えている方1名と、既存のNPO法人に加入された方1名の計2名である。練馬区災害ボランティアは、災害時に避難拠点へ参集してボランティア活動していただく、区の制度である。

<委員>つながるカレッジは、非常に良い内容で、ぜひ続けていく必要があると思う。また、被災後の生活再建に至るまでの内容を加えていくと共助の厚みが増してくると思うので、今後検討をしてはどうか。

<委員>中学生カリキュラムに参加者に対して、避難拠点運営連絡会や防災会などの訓練の参加経験をアンケート等で聞いていないか。また、今後参加したいという声はなかったか。

<事務局>地域の防災訓練への参加経験はアンケート項目になかったが、実際に話を聞いたところ、防災に関心のある生徒たちが多く、将来的にも関わっていきたいという声もあった。

<委員>中高生にも訓練に参加してもらいたいが、残念ながらなかなか参加を得られない。こういうカリキュラムの際に、訓練参加を呼び掛けて欲しい。

<委員>小学校の避難拠点訓練に、中学校の生徒が去年は9名、一昨年は5名参加し、積極的に動

いてくれて非常に助かった。様々なことに興味を持つ時期なので、積極的に訓練参加を呼びかけた方が良いと思う。

<委員>避難所では、中高校生や小学生も支援者側として出来ることがある。単に守られる存在ではなく「各々ができることは何か」を考えさせる環境が必要かと思う。どのように教えていくかという課題はあるが、中学生に限らず、学年ごとのできることを、カリキュラムや普段の訓練活動で考えさせると良いと思う。

<委員>学校での訓練を見ている、中学生は素晴らしい防災の担い手だと実感している。

<委員長>委員の知見から、防災としてのオンラインの講座や講習会を開催するにあたってアドバイス等あればお聞きしたい。

<委員>民間ではセミナー等でもオンライン方式は日常文化になってきた。オンライン方式には、遠方からでも自宅からでも参加できるメリットがある。受講方式として、対面とオンラインの2つの方式があると参加の幅が広がると思う。オンライン方式の導入については、コロナが収束しても続くのか。また、オンラインには定員を決めていないのか。

<委員長>受講方式としては、対面とオンラインの混合方式を考えている。オンライン方式に関しては、受講環境の整備など、未だ試行的な部分もあるため、今年度については、基本的には座学の定員数に合わせて、オンラインの定員数を設定する予定である。

<委員>将来的にほかの講座もオンラインに移行するのか。

<委員長>ねりま防災カレッジ、とりわけ講座では体験を取り入れることを大事にしてきた。オンラインではなかなか体験を取り入れることが難しく、この度、自助講座にオンライン受講を取り入れることは新たな試みである。オンライン受講で取り組める演習として、たとえばマイ・タイムラインを作っていただく等、試行錯誤を重ねていく必要があると思っている。

<委員>できれば少しずつ増やして、体験とオンラインを可能な形で組み合わせればより参加しやすいと思う。

<委員>大学も最近はオンデマンドの教材を作っていて、事前学習をさせているところもある。HPにアップしておけば、時間関係なく受講できるので、オンデマンドもあって良いと思う。あとはオンラインの環境であっても図上の演習等できるものがある。そこは試行錯誤されているということなので、引き続き検討されたい。あとは、受講内容を録画し、事後学習等に使えるようなオンデマンド教材を作れると良いと思う。

<委員>乳幼児の保護者向け講習会はオンデマンドが適していると思う。

<委員長>オンデマンドも検討自体はしているが、セキュリティ上の課題があるため、試行錯誤が必要だと思っている。

<委員>どのような人材を育成したい、どのようなことを学びたいかによって、選択するカリキュラムが分かるようになると良いと思う。リアルタイム視聴が必要なオンライン受講のほかに、オンデマンドのような環境を作るといったことも、今後に向けて少し検討できると良い。

<委員長>防災カレッジ事業には人材育成と防災意識の普及・啓発の二本柱があり、受講者にとって魅力ある事業を展開していきたいため、今後も本委員会を通じて、委員から様々なご意見いただきたいと思う。